

# 日本フンボルト協会 2021年度第2回常務理事会議事録

日 時：8月28日（土）14時～16時35分

形 態：オンライン会議

出席者：伊藤眞（理事長）、縣公一郎（副理事長）、浅田和茂（副理事長）、西川伸一（副理事長・関西支部長）、伏木信次、広渡清吾、居城邦治（北海道支部長）、守矢健一、西土彰一郎、岡林洋、坂越正樹（中四国支部長）、櫻田嘉章、高橋宗五、高橋義人、高山佳奈子、高橋輝暁、武内謙治（九州支部長）、種村眞幸、鏝田武志、山本敬三、関映子（事務局）

欠席者：井田良（関東甲信越支部長）、須田利美（東北支部長）、和田肇（中部支部長）

（敬称略）

## 【議題】

議事に先立ち、新たに常務理事に就任した西土彰一郎、守矢健一、山本敬三の各氏より挨拶があった。

### 1. 新常務理事の所掌について（資料1）

伊藤理事長より、新常務理事の所掌について提案があり審議の結果、原案通り了承された。

### 2. 2021年度総会について

（1）事務局より、2021年度総会について、下記の通り報告があった。

- 6月12日（土）参加者は約80名
- オンライン会議
- プログラム1. 13:00～13:50 2021年度会員総会事務協議
- プログラム2. 14:00～15:00 Lepel ドイツ大使講演会

なお、Lepel 大使の講演会は、協会会員限定でYouTubeに掲載し、8月6日に会員に連絡した。

（2）伊藤理事長より、Lepel ドイツ大使講演会の原稿（ドイツ語原稿と日本語訳原稿）をホームページに掲載する件について提案があり、審議の結果、Lepel 大使の了解を得たうえで、協会ホームページ上に掲載することになった。

→ その後、Lepel 大使の了解が得られたので、ホームページ委員会（種村委員長）で掲載方法などの検討することになった。

### 3. 2022年度総会について

伊藤理事長より、2022年度総会の開催方法について提案があり、審議の結果、現状のコロナ感染状況を踏まえ、今年度と同様、まずはオンライン方式を前提に検討することになった。併せて、対面式で実施する場合の可能性も排除できないため、会場の検討も引き続き行うことになった。

### 4. 本年度のドイツ研究留学説明会開催について

（1）鏝田常務理事より、本年度の留学説明会開催について、下記の通り提案があり、審議の結果、了承された。

- 開催時期：学務の都合および準備時間に鑑み、12月後半から1月前半にかけて実施
- 開催方式：オンライン方式

（2）意見交換の結果、留学説明会の運営として、オンライン方式である利点を生かし、ドイツ滞在中のHumboldtianerに参加してもらい、コロナ禍におけるドイツの研究体制の現状などの情報を提供してもらうなどの可能性も含めて検討することになった。

(3) 鏝田常務理事より、留学説明会開催について、支部や協会会員を介して、同説明会の広報活動への依頼があった。また、帰国間もない若手研究者のリスト等に基づき、留学説明会で情報提供を依頼したい旨の提案があり了承された。

## 5. 2022年度日独共同研究奨学金について (資料2、3)

(1) 伊藤理事長より、「日独共同研究奨学金実施要領(2022年度)」について、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、昨年度と同様に、「2. (目的)」および「9. (審査結果の公表)」に「備考」を記す旨の提案があり(資料2参照)、審議の結果、原案通り了承された。

(2) 伊藤理事長より、下記の通り、2022年度日程について提案があり、審議の結果、了承された。

### 【2022年度日程】

|                 |                          |
|-----------------|--------------------------|
| 2021年10月        | 公募開始                     |
| 2022年3月31日      | 申請書類締切                   |
| 2022年4月初めから5月   | 選考委員による選考                |
| 2022年6月         | 助成対象者の決定および会員総会での報告並びに公表 |
| 2022年9月-2023年8月 | 助成対象期間                   |
| 2023年10月末       | 研究報告書提出                  |

(3) 伊藤理事長より、2022年度日独共同研究奨学金選考委員会委員について提案があり(資料3参照)、審議の結果、原案通り承認された。

(4) 伊藤理事長より、本年度奨学金授与式について、オンライン方式も検討したい旨、提案があり、了承された。また、Urkunde 授与の仕方、奨学金の送金方法などについて、審議の結果、本部で検討することになった。

なお、本年度の助成対象者、研究題目は下記の通りである。

- ① 太田 直美会員(奈良女子大学理学部、宇宙物理学)、Angie Veronica (Uni Bonn)  
『宇宙 X 線望遠鏡 eROSITA と XRISM による銀河団ガスと 活動銀河核の相互作用の研究』
- ② 長谷川 修一会員(立教大学文学部、西アジア考古学)、Andrea Squitieri (Uni München)  
『後期青銅器時代~鉄器時代(紀元前 1500~600 年頃)のテル・レヘシュの石製品研究 — イスラエル北部の石製品産業の文脈に照らして』

## 6. 本年度の Zoom 討論会等について

前回の常務理事会で、検討を依頼していた企画について、高山常務理事より、本年度の Zoom 討論会について提案があり、審議の結果、以下の要領で実施することになった。

- 日時: 2021年11月28日(日) 14:00~17:00(予定)
- 方式: 会員限定によるオンライン(Zoom)。後日、会員限定でYouTubeに掲載予定。
- 登壇者およびテーマ
  - ・毛利透(京都大学教授)「行動制限の法的根拠」(仮題)
  - ・高田倫子(大阪市立大学准教授)「個人情報開示等の不利益処分」(仮題)
  - ・内田博文(九州大学名誉教授)「医療従事者の人権」(仮題)
- 司会: 高山佳奈子
  - ※ テーマの確定およびイントロダクション作成の後、後日、本企画の案内を協会ホームページに掲載する。

伊藤理事長より、常務理事の所掌に基づき、討論会の提案に関して、文系案は縣副理事長、理系案は西川副理事長に提出してほしい旨の発言があった。

## 7. 日本フンボルト協会寄附口座管理規程について（資料4）

伊藤理事長より、「日本フンボルト協会『寄附口座』管理規程（案）」について提案があり、審議の結果、同口座の会計収支について、常務理事会と総会での承認を得ることをより明確にする修正を行ったうえで承認された。

## 8. 支部活動について

各支部から助成金申請状況について、下記の通り説明があった。

- 北海道支部（未定）：現時点では活動方針未定のため申請せず
- 東北支部（申請予定なし）：残金あり、申請せず
- 関東甲信越支部（20万円申請）：関東甲信越支部独自の留学説明会開催や支部HP作成のため
- 中部支部（申請なし）：費用のかからないオンライン方式による活動のため、申請せず
- 関西支部（20万円申請）：繰り越しの可能性も含めて申請
- 中四国支部（申請なし）：イベントを考えていないので、申請せず
- 九州支部（申請なし）：費用のかからないオンライン方式による活動のため、申請せず

## 9. ニュースレターの発行について

事務局より、ニュースレター送付の際に、データ確認シートを同封し、特にメールアドレスの確認とメールアドレス提供の依頼を行うことにする。また年会費未納の会員にゆうちょ銀行払い込み用紙を同封し、年会費の督促を行う旨の説明があった。

## 10. その他

### （1）2021年度シーボルト賞について

伊藤理事長より、2021年度シーボルト賞について下記の通り説明があった。

- 受賞者：今野元（こんのはじめ）教授（愛知県立大学、政治学・経済学）
- 授与式：ドイツ大使館（7月27日）において対面式で開催された。

なお、今野教授は、シーボルト賞受賞者として本協会に入会していただいた。

### （2）2021年度ザイボルト賞について

伊藤理事長より、2021年度ザイボルト賞について下記の通り説明があり、本協会会員の高山佳奈子教授の受賞が祝意をもって披露された。

- 受賞者：高山佳奈子教授（京都大学）、高木英典教授（東京大学）、井上茂義教授（Uni München）、Prof. Dr. Regine Mathias（Uni Bochum）
- 授与式：11月16日（火）オンライン形式で実施予定

### （3）ニュースレターのデジタル化について（意見交換）（資料5）

- 1) 伊藤理事長より、発送業務などの事務局負担軽減のため、ニュースレターのデジタル化について発言があり、それを受けて縣副理事長より、他学会等の状況を踏まえて、ニュースレターのデジタル化を図ることは可能であるとの報告がなされた。
- 2) その一方で、①デジタル化を早急に行うと、年配会員の脱会などが懸念される、②現状では、ゆうちょ銀行振り込みによる会費納入が最も多く、ニュースレターをデジタル化すると、会費納入用紙が同封できなくなるなどの意見や課題が出された。
- 3) 意見交換の結果、ニュースレターのデジタル化という方向性は維持しつつ、上記の課題などを踏まえ、デジタル化へ段階的に移行していく方向で、引き続き、常務理事会を中心に検討していくことになった。

### （4）年会費の徴収方法について

伊藤理事長より、年会費の徴収方法についての現状報告がなされた。

### （5）次回の常務理事会

次回の常務理事会は、12月18日（土）14時～17時（予定）、オンライン方式で開催することになった。  
(以上)